

秋-8 なにゆうてるか、わからへん

1. 活動の目的

- ①地域で話されている方言について知る。
- ②家族や友人が話す方言を理解し、楽しくコミュニケーションをする。
- ③看板や標語、商品名など身近なものを通して関西の言葉遊びの文化に触れる。

2. 準備するもの (☆は教材ファイルにあるもの)

- ☆CD (大阪弁音声1、音声2、歌『ええねん』)
- ☆大阪弁の表示の写真
- ☆まんがサンプル (切り抜き)
- ☆歌詞カード (『ええねん』・『ええじゃないか』)

3. 活動の手順

留：留意点 **参**：参考 **発**：発展的活動

活動1

- ・大阪弁がわからずに困った経験がないか話す。
- ・家族や友人など身近な人が話す日本語と教室で習うものと違いがないか聞いてみる。
- ・学習者が知っている大阪弁や聞いて分かる表現について話す。
例：めっちゃ/知らん/ほんま など

参 大阪弁を意識したことがない学習者がいた場合は、ボランティアが短い会話のやり取りを演じて聞かせてみるとよい。

例： Aちゃん：お母さん、日本語教室って、何時からやったかな？
お母さん：10時からやで。忘れもんせんと行きや。

留 方言は辞書では調べられないので、日常生活の中で会話を通して覚えていくしかない。

活動2

- ・簡単な大阪弁の言葉と、表現をクイズ形式で楽しみながら紹介する。
言葉の答え：①c ②d ③b ④e ⑤a ⑥f

会話の答え：

娘「このケーキ、食べてもいい？」

母「もうすぐ ご飯だから、だめ。」

たろう「ごめん、借りた傘、なくしたんだ」

はなこ「いいよ (かまわないよ)、いいよ。安いものだから」

さくら「これ、君の傘？」

ももこ「ううん、ちがうよ。」

さくら「わたし、結婚したの。」

ももこ「えーっ！いつ？」

CD

(音声1、2)

活動3

・大阪弁のルール（文法）を説明する。規則を知れば、理解もしやすくなることを伝える。

留 方言は家族間など親しい間柄や、地元のカジュアルな場面でよく用いられる親しみのもてる地域のことばである。しかし、使用場面によっては、違和感を与えたり、相手に不快な思いをさせたりすることもある。方言を話す際は、相手や場面に配慮が必要であることを説明しておく。このユニットでは、実際に使用することに重点を置かず、意味がわかること（聞いたり、読んだりすること）を中心に練習する。

活動4

大阪弁の
表示の写真

・町の中にある大阪弁のおもしろい表示を読んでみる。標語や商品名に使われている。（商品名例：「～さんちの“ええ”たまご」など）

発 活動のあとで、学習者に自分の身の回りにある面白い表示などを探してくるよう言い、教室で発表する。

・まんがや歌などに使われている大阪弁に触れ、楽しく活動する。

まんがサンプ
ル
歌詞カード
CD（歌）

参 『ののちゃん』いしいひさいち作（朝日新聞朝刊に掲載）
『ええねん』ウルフルズの名曲
『ええじゃないか』ジャニーズ WEST